

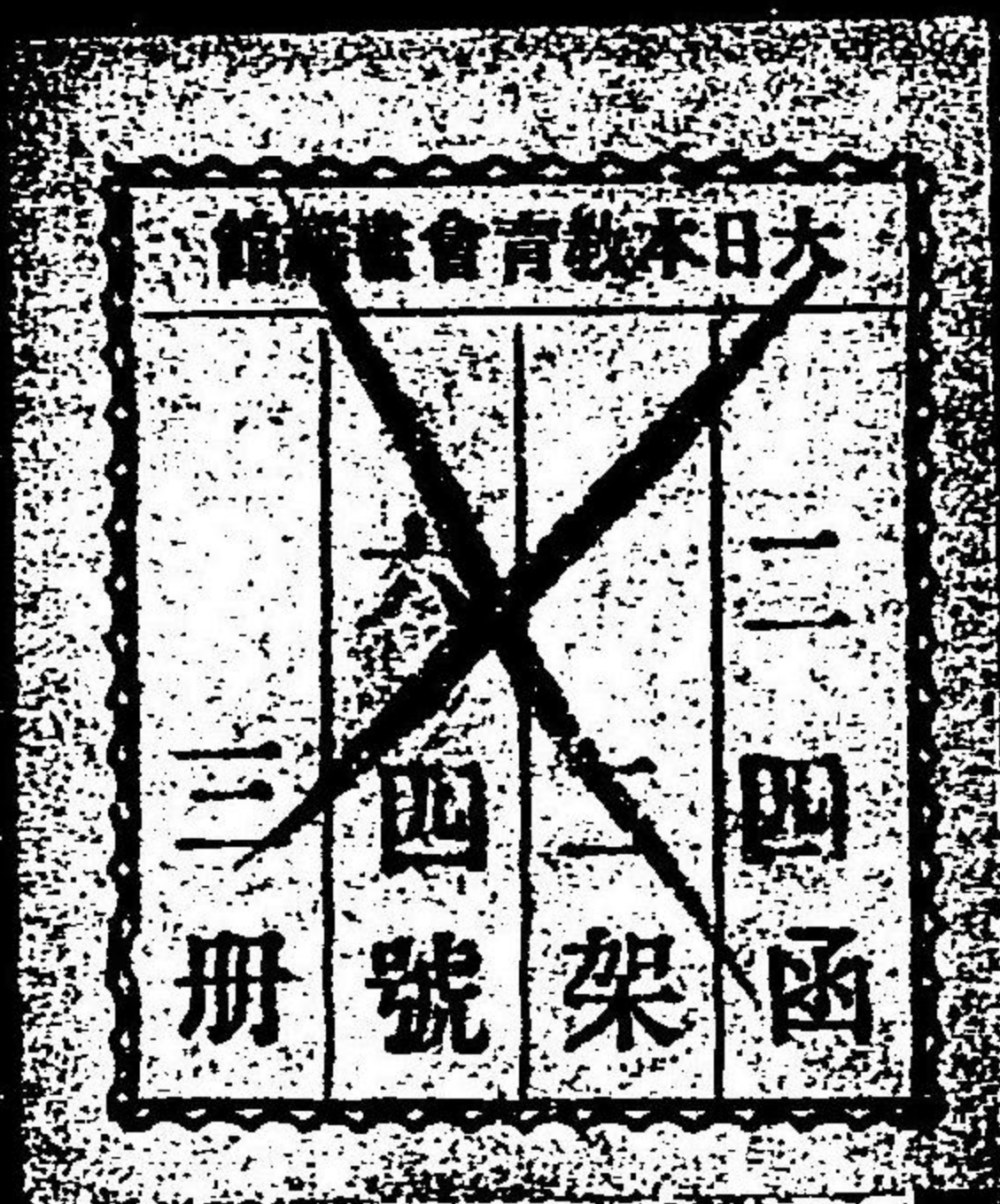
新撰農工商往來

石川縣農工商會編

三

特39

428



石川縣尋常師範學校編輯

新撰農工商往來

版權所有

益智館藏版

新撰農工商往來卷三

商乃部

凡商賣之貨物を或

換へ有るを一通一餘

割取以て不足を補ふ

新撰農工商往來卷三

新撰農工商往來卷三

商乃部

凡商賈之貨物在或

換一有無在通一餘

利或以此不足者補之

農工商往來

卷三

一

業	了	了	了	了	了	了	了	了	了
引	凡	用	の	形	帳	簿	の	注	入
元	受	取	手	形	帳	簿	の	注	入
文	送	状	仕	切	書	日	記	帳	簿
臺	帳	金	鈔	仕	入	帳	簿	の	注

物	交	換	帳	仕	入	帳	仕	切	書
帳	判	元	帳	の	類	あり	近	く	似
取	簿	記	法	注	管	便	の	注	入
丁	精	密	と	の	あり	手	帳	簿	の
高	費	の	は	復	記	法	を	用	い

用の少く九月より各單丁記
法を用ゐる部て帳簿
尤高家此証授物あるを
ハ記載不誤税考なく
計算了。疎漏なき程

注意止るなり行要あり
俵通用の金銀銅鈔
及び圓錢鑿金純大下
あふ証幣しよ七友札
銀り札各形様を臺ふ

一又貿易の便と海關の
外國に引引の通貨を
互に交換し得る物に
取を能定し一重能取
遣るを交換手形を取

手形及び引便の交換
者換電信の交換
便利あり手形の往復
を寒暖の便の如く
替を為す為の事

能くしるる郵便先が或
 経後たう交する子は
 了る所へ大切なる書類
 を送るべき書留郵便
 便あり者機迅速を要

其の如くは郵便信を用
 る郵便は總て手形信
 文帳簿の類は勿論
 郵便電信亦各種類
 により規則に循ひず

紙を貼用する處へ一
 一尺ありし絹を約二尺
 當に得あるへし又白
 用の糸より冬米麦雜穀
 味噌醬油醃塩菜種

油石炭油薪炭乾物
 那業の類あり薪炭六
 檀櫛王令懸け穀物酒
 類を升りて器用家具
 裁財より冬業等皆七折定地

皆家屋附屬の用品
 形の年廻り品は机
 及墨筆紙石墨硯等
 鉛筆肉池の備文硯書
 籍と画文庫紙入印

筆鏡少刀筆等時計
 筆暖計眼鏡扇子巻
 扇その他帽子幅巾傘
 正統品統等履等鞋
 衣類 缺角等衣

類之六至料多凡也七
至袴而緩少袖衫帷
至單物法衣半纏襦
袷帶人合羽禮卷手袋
手拭袋引括半足袋

衣者蒲蒲冠風呂敷飯
帳衣反物手巾本綯
麻布絹布絹紗羽二
重綿綿博多緩甲斐
絲織袖上有少念織

二子錦唐更紗重巾

毛綾羅紗三裁管絨

あゝ此号は通書

若報子園のて上号下

号は前あゝ其染色也

紺花色淺黄緑系紅

茜重卵黒梅染燕子

染友仙染綾様稻地

六紋所伝子色艶濃

赤法水常世海山純

祿之任正為一金石珠

玉八金銀銅鐵錫鉛

赤銅青銅生金鑄銀鐵

錫鐵亞鉛水晶瑪瑙

珊瑚瑪瑙琉璃琥珀石

金剛石水玉之枕中金

別名之云以貴重乃果

七寸整純銀斧手斧

槌錘釘拔曲尺墨土壺

墨壺等物大工比子の

是具存、又藥鋪乃
賣之、其我國所產の
み、有らば外玉、和素、此
品、頗多、一、大昔、人參、
麝香、熊膽、水、割、浸

割、丁、幾、割、越、梅、形、割
賣、羊、丸、葉、桂、藥、方、也
精、之、以、味、一、之、加、減、調
合、秤、量、号、丁、寧、了、配
割、出、之、魚、一、水、陸、の、魚

多獸鯛鯉鯉鱈比目

魚鰓鮑鮑烏賊海老

海鼠鮭鯉鮎鯉鮒鮓

鮓鮓鮓の類ハ河海或

之湖沼之て漁す猪葱

熊の類ハ山を走り鶺鴒

雁は類を古の或類ハ

る家畜よは牛馬羊

豚及家鴨鶏ハ類あり

中より牛馬肉食の身

一、一、七、牛乳乾酪官
橋、一、効、あ、り、以、他、山
岳、河、海、に、名、産、す、る
種、の、一、種、に、あ、り、ま
す、其、數、最、多、く、也、と、す

と、板、巻、に、お、し、て、あ
ら、り、押、高、業、を、學、び
し、畜、社、組、合、官、産、仲
買、卸、小、賣、に、差、分、あ
り、重、銀、を、貸、預、す、所

を能くして其危険を債
會には保証會社等
り同座の賣方株代人
有るは其の扱入は
の手教前より指直

を見計し去る賣標
一 仲買の買方乃
因旋人あり口銭手数
料約定の外不出仕
業阿らへらるる商標ハ

目印 給むるは昔の如く
書賣物 物を願ふに
手代丁 種を束の目
お存暇 あはは 讀む算
術 手習ふは 學ぶ處

書以 讀むは 事理
を暗く 考へ 高書賣の掛
引を 考へ 能く 算
術 學ぶは 是れ 重
銭 入の 勘定より 高

の換はをさるゝも能
えり又多故思はれ
ハ帳面をさるゝ書杖
注文の注復をさるゝ能
えり然れ力あらは高

法経清をさるゝ學以学
成り業孰し那と途
て海印此印方力をさる
業もるゝ線と業も
我國輸出品は冠す

して産物産物—砂糖
 石油も産物器械の類
 尤外玉輸入品は金銀
 う自他のお場を考へ
 需用供給の約言を

考へ時機を遅らさず
 約言は時々の速を以
 るべし若し速約言を以
 ぶは必罰金の事あり
 こも亦高よ或るは

前々てより其心も
里今也海に六濤船あ
り陸より流率阿り者
其上小電線の設あり
て千里は遠も数日小

運漕一百里は長小
瞬の間に通信を今
高機を空に構え投
し活後の業をなす
是高取乃孰練なり

正不膏業尤利分少
能く永續す非業の
利益ハ大規不正の取
引して破産滅亡乃
其をより有る高取

勤後修の三城吉あり
物ハ正直を台とす
今ハ凡百ハ謀計を
一途正直とせずと宜
なるものハ信用を得る

こと厚く世に以て命
増一家業益業之永
世に孫繁昌しま
皇國此世益と
了す

竹軒塚谷淺書



新撰農工商往來卷三終

明治二十年一月十七日版權免許
同年二月五日發行

定價五錢五厘

編輯

上村要次郎

石川縣金澤區水溜町廿五番地

書者

塚谷淺

同縣同區下本多町四番丁一番地

出版人

倉知新吾

同縣同區横山町三番丁七番地

明治二十年一月十七日版權免許
同年二月五日發行

定價五錢五釐

編輯

石川縣尋常師範學校

版主

益智館

石川縣金澤區片町
五十六番地之三

